

Automotive SPICEの動向

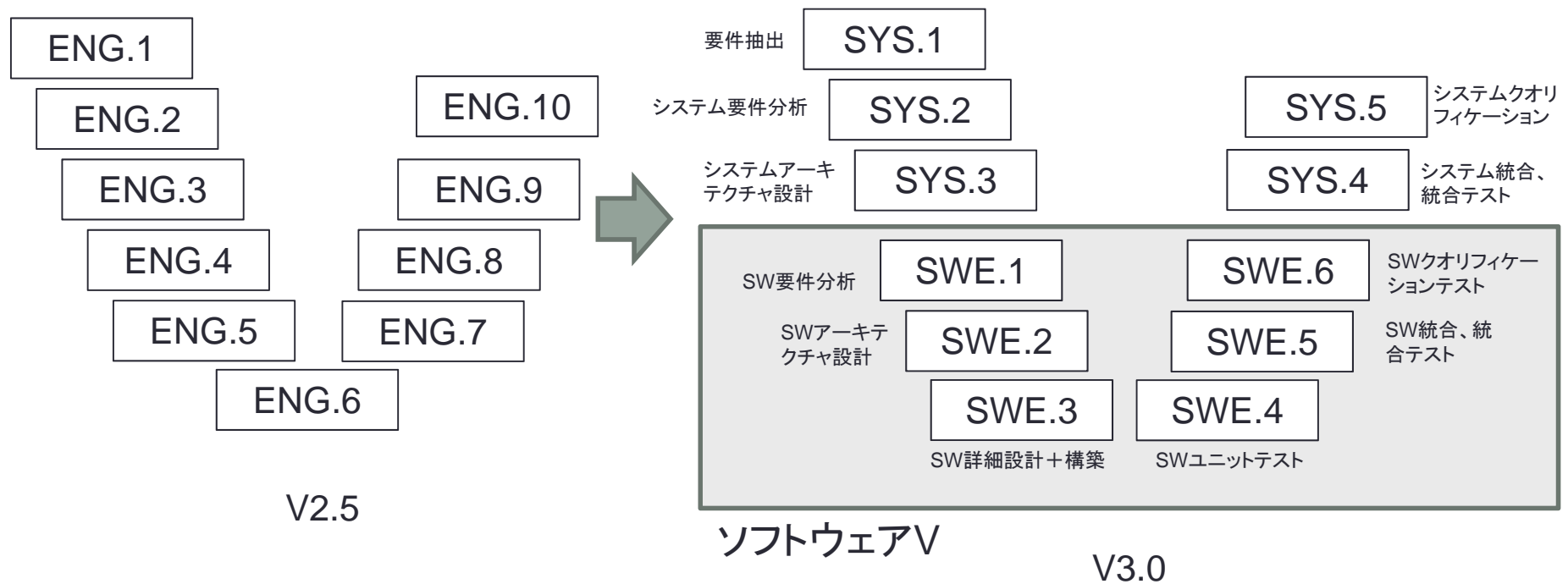
- ISOの作業部会とVDA-QMCが連携
 - VDA-QMCからのISO/IEC JTC1/SC7/WG10とのCリエゾン申請が承認された
- ISO作業部会は、Automotive SPICEをISO33kシリーズに組み込むことを期待
- VDA-QMCとしては、Automotive SPICEが既に多く利用されていることから、移行より継承性を重視している
- 現在見直しを行っているAutomotive SPICE v3.0は、当面は現行のv2.5の枠組みを大きくは変えない考えである

Automotive SPICE v3.0の概要

- 見直しの方針 (2013年)
 - 効率性
 - 拡張性 (Plug-in concept)
 - 最新化 (State of the art)
 - 用語の見直し、明確化
 - 機能安全規格 (ISO26262) との整合性
- 2014年の状況
 - 方針
 - State of the art
 - 解釈、使用のためのガイダンスの充実 (特にHISスコープに対して)
 - 他のプロセスは整合性をチェックするが、内容はあまり変えない。
 - Keep small and simple, Keep Structure
 - A-SPICEとして内容を精査
 - 整合性を確保、冗長性を削除
 - 改定のスケジュールとしては、オフィシャルレビューが2015年2月から5月、リリースは7月の予定である。

主な論点

- ⇒ 開発プロセスの変更
- プロセスの枠組みの見直し
 - システム領域とソフトウェア領域に限定
 - プラグインコンセプト (ハードウェアV, メカニカルV)



主な論点 (つづき)

- ⇒ MAN(管理) → PRO.1, PRO.2、...
- ⇒ SUP.1(品質保証)の独立性 → 客観性と要員能力の確保
- ⇒ SUP.10(変更依頼管理)はアネックスへ、ソフト修正は、開発プロセスで対応。
- ⇒ SUP.9, SUP.10のStrategyとProceedingsはマージする
- ⇒ 開発プロセスにおける「一貫性」と「トレーサビリティ」の分離
 - 一貫性は内容の話、トレーサビリティは参照／リンクである。
 - 一貫性はレビューで確認される。
- 検証基準は、テストのための基準でありV字の右側のテストで確認される。
- 検証基準は成果物属性のレビュー(エバリュエーション)を通じて確立される。
- カテゴリーズ、優先付、リリースへのマッピングの整理、見直し
- エlement、ユニット、アイテムの使い分け

